

十九勢の喜乃郷に負けている雪若丸にとつてははや厄介な相手。しかしその心配も感じさせずに左差しから寄り切って3敗を守った。

雪若丸とともに今場所こまで十両の土俵を盛り上げてきた西安を先に左を差して向正面に攻めた西安だったが、あと一押しのところでは落ちて決定戦進出はならず。閑取最軽量の140キロだが、必ずしも重ければ強いというものでもないということを証明する今場所の活躍振りだった



日向藤●(寄り切り)○雪若丸

先場所新人幕で8勝を上げた春雷はこの場所も8勝目と決定戦進出をかけて若佑と対戦。勝てば同部屋での決定戦、負けるものなら弟子の雪若丸に優勝をさらわれるとあって春雷もそこは譲れないところ。そして、その気



春雷○(寄り切り)●若佑



春雷○(寄り切り)●雪若丸

西筆頭の龍不動が鬼ヶ嶽を下して7勝4敗とし、念願の入幕を確実にした。以前に十両が活躍を見せた龍乃島が果たせなかった幕内昇進に播磨屋親方も喜びをかみしめている。現播磨屋親方が



鬼ヶ嶽●(下手投げ)○龍不動

合が空回りすることなく慎重に若佑を退けて決定戦へ。十両の取組終了後すぐに決定戦が行われ、春雷が兄弟子の意地を見せて優勝を果たした。

伝達式の後、「まさか自分が大関になるうとは思ってもよらなかった。」と正直な心境を

緊張の面持ちの佐賀ノ海だったが、「昨日行なわれた理事会にて満場一致にて大関に推挙されたことをお伝えします。おめでとうございます。」と使者の大響親方が伝えると、「謹んでお受けします。大関の地位を汚さぬよう一心一意に稽古に精進いたします。」と口上を述べた。

伊達と貴錦といえば、ともに40歳を超えて現役を続け通算300勝以上をあげ一緒に引退断髪式を行なった盟友。昇進は遅かったが少しでも長く大関を務めてもらいたいという協会の願いを込めて選ばれたようだ。この日は残念ながら錦風親方(元関脇鏡里)が新型コロナウイルスで入院中のため、佐賀ノ海をスカウトした前錦風親方(元小結富士光)が代理で使者を迎え入れた。

6月28日千秋楽打ち出し後の開催された理事会にて満場一致で大関に推挙された佐賀ノ海。翌日、早速に協会の使者として大響親方(元小結伊達)と協会顧問の前三ッ峰親方(元小結貴錦)が大関昇進の伝達のため錦風部屋に向かった。

佐賀ノ海大関に

に冬牡丹は陥落、36歳の紅葉盛が引退を表明した。第101回場所初土俵を踏み、最高位は前頭2枚目。場所後、年寄紅葉山を襲名し後進の指導にあたることとなった。(勝間田)



大江錦●(寄り切り)○龍不動

勝間田部屋では、春雷、雪若丸が頑張りを見せたのは対照的に幕内力士の誕生とないに期待される。他に昇進を果たしそうな力士となる太刀鳳と若柱、そして再入幕となる日向藤あたりとみられる。



語った佐賀ノ海。

117回本場所に序の口で初土俵を踏み、翌場所に序二段優勝して123回本場所に新十両、127回本場所に新入幕と順調に番付を上げたものの、入幕以降は脇の甘さから上位には通用せず低迷する土俵が続いていた。

そのような中で145回本場所に自己最高位の前頭筆頭にあがったが2勝9敗と大負けここで当時の師匠の錦風親方(元小結富士光)から「得意のど輪を活かすために左から攻めろ!それと駄目ならお前の相撲人生もそこまでだ!」と厳しく叱責され奮奮、左から攻めを徹底的に稽古したという。

その成果が146回本場所に現れて9勝2敗の好成績で初の三賞(敢闘賞)を獲得。以後、人が変わったかのような相撲っ振りで快進撃を続け、150回本場所には初の賜杯を手にするまで。そして、今場所8番勝てば大関というプレッシャーを跳ね除けて晴れて大関の座を手中にした。

錦風部屋にとって若乃嶋に次ぐ2人目の大関誕生。部屋としては喜ばしいことだが、若手が育っていないのが悩みのタネ。佐賀ノ海

にはさらに上を目指してもらいたいところだが、同時に若手の育成にも尽力してもらいたいというのが錦風親方の願いだ。(錦風)

古今東西

紙相撲豆知識 56 部屋別優勝回数

桐壺部屋の大関春ノ翔が二度目の優勝を飾ったが、桐壺部屋と言えば優勝力士製造工場ともいえるほど多くの優勝力士を輩出している部屋だ。

今回の春ノ翔の優勝で、部屋としての優勝回数も徳川御大率いる富士浪部屋にはまだ及ばないが、平成の大横綱を擁した鹿賀乃戸部屋を抜き、昭和末期を席巻した輝勢岩部屋と並ぶ18回目の優勝となった。同一時期に優勝経験力士を5人も擁しているのも過去に例のないことだ。

部屋別優勝回数

- 1 富士浪部屋系 23回
(富士昇⑥、噴火山①、玉嵐①)
- 2 桐壺部屋系 18回
(剣山①、虎富士③、桐の花①)
(若剣①、美空富士⑧、春ノ翔②)
(支那虎①、魁電①)
(輝勢岩部屋 18回)
(岩湊③、扇灘⑬)
- 4 鹿賀乃戸部屋系 17回
(英⑬、鹿富士①、英筏①)
- 5 初代朝日松部屋 13回
(荒登⑬、駒桜①)
- 6 八重垣部屋系 10回
(鬼錦⑥、岩島津①、鬼ヶ嶽③)
(照の王①)
- 7 初代霧ヶ浜部屋 9回
(辰輝灘⑥、力伝龍②、錦の花①)